

ルリビタキ



ナミテントウ



ジャノヒゲ



シロハラ



ネジキ(冬芽)



マンリョウ



森の二十四節気

冬至 (12月22日～1月4日頃)

一年で最も昼が短く、夜が長い季節です。二十四節季では冬の真ん中であり、これからが寒さの本番となってきます。落ち葉の隙間や木の幹などでは、生きものたちが冬越しの準備。仲間と身を寄せ合うナミテントウや、落ち葉の下の生きものを食べようと、地面をつつくシロハラを観察することができます。イベントでは収穫祭を実施。餅つきやどんぐりの播種などを楽しめます。他にも、森に積もった落ち

二十四節気とは…一年を二十四に等分し、天候や生きものの様子など、季節の変化を表す名前が付けられています。季節の訪れを知ることができるため、農作業に欠かすことができ

小寒 (1月5日～1月19日頃)

いよいよ寒の入り。寒さが日に日に厳しくなる季節です。森では雪がちらつく日が増えてきます。園路沿いでは

赤い実をつけるマンリョウや、濃い青色の種子をつけたジャノヒゲが見られます。マンリョウは漢字で「万両」と書き、おめでたい名前からお正月の飾りに使われることも。ジャノヒゲは別名「リュウ